

農空間

第58号

発行所
福島県農林水産部
農村計画課

【特集】津波被災農地復興に向けて 換地の悩み

現在、浜通りの津波被災地を中心に、復興を目的としたほ場整備事業への取り組みが始まっています。

この事業では、地域の復興のため、農地の区画整理と道路や水路等の整備に伴い、工事後に土地の権利を再配分して農地の集団化を図る「換地」を行います。

今、この復興関連事業を実施している地区において、換地をどのように進めていくかが課題となつていきます。

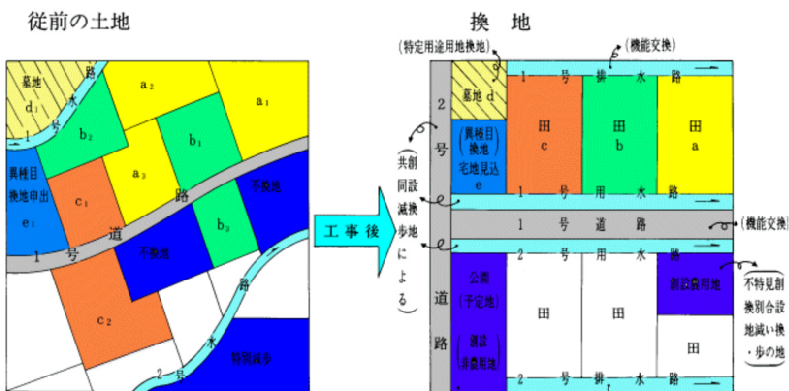
【悩み1】避難者を含めた合意形成

換地においては個人の土地の権利を扱うことから、権利者のみなさんの事業に対する理解と地域の合意形成がなくてはなりません。

津波被災地等においては、地元を遠く離れて避難している方もいることから以前のように集会で意見をまとめることができず、地元の方の対応をはじめ、関係機がその対応に苦慮して毎日です。

【悩み2】復興関連事業との調整

この事業では、ほ場整備とあわせて復興のための公共インフラの整備や企業の誘致等を計画しているところが多く、その早期着工が求められています。



換地のイメージ

成工事をを行うこととしていますが、津波被災地等では、それが地域の復旧・復興に直結するものであり、復旧に早い対応が必要とされてい



地元説明会

ます。そこで、これまでの取扱いが出来ない特例的な薬片手に検討しています。

【悩み3】換地士の不足

各地区で役員をはじめとした地元のみなさんが換地を進める上で必要となるのが、専門的な知識を持つ技術者である土地改良換地士、通称「換地士」です。

換地士は国家資格を有する換地のエキスパートであり、換地を実施する上で非常に重要な役割を担っています。

復興事業は、たくさん地区が一斉にスタートしてありますが、県内の換地士の数が十分ではないことから、今後、ちょうど忙しくなる時期の換地士不足を解消する処方箋の開発が急務となっております。

【今後】

以上のように、換地にまつわる悩みは多岐に渡っており、これまでの事業地区にはない課題も多いために対応も手探りの状況ですが、県では、関係市町村や地域の皆さんと協力しながら、復興に向けた歩みを一歩一歩進めていきます。

【農地管理課】

ふくしま復旧便 — 県内からのお便り —

相双

進む 農地復旧!

作田前地区

東日本大震災による津波で被災した新地町の作田前地区では、ほ場の大区画化を行いながら復旧する工事が本格化しています。

この地区は、非常な脆弱な層があるため、その対策の注目を図り



ながら工事してはいますが、予想を超えるレベルの軟弱地盤への対応や予期せぬガレキの出現など、悪戦苦闘しながら工事を進めています。

本格化する藤沼湖の復旧に思う

先日、東日本大震災の地震により決壊した農業用ダム「藤沼湖」の災害復旧工事の安全祈願式に出席しました。

震災の発生から2年8ヶ月が経過し、本格的な復旧工事が始まります。これまでに振り返ると、決壊の一報を受け、大きな衝撃を受けたあの日から、平成23年度には決壊原因の調査結果を受け、平成24年度からは復旧委員会により復旧工法等の検討を重ねるなど、関係者の惜しみない努力とともに、地域の皆様の協力があり、この日を迎えました。

手作業でのガレキ撤去作業



基盤整地の状況



現在の藤沼湖の状況



農村基盤整備課長
小島 重紀

『地域に根ざした水土里ネット』
『学びと健康づくり』
『土地改良施設の多目的利用』

伊達西根堰土地改良区
石川 博利さん

伊達西根堰土地改良区は、福島県の北部に位置し、福島市・伊達市の一部、桑折町及び国見町の2市2町に広がる水田・畑約1400haを受益地とする土地改良区です。

土地改良区が管理する施設はその地名より「西根堰(にしねせき)」と呼ばれ、2本の用水路・頭首工及び藤倉ダムです。西根堰は約390年前、江戸時代初期に当時の領主上杉景勝、上杉定勝により完成しました。その後県営かんがい排水事業により現在のコンクリート水路に整備されましたが、所々に昔の姿を残しています。

地域の小学校の施設見学や、隧道探検の体験学習等を取り組んでまいりましたが、平成22年度に社団法人土木学会の、選奨土木遺産に認定されたことを契機に、また、震災からの復興を願い「健康

農業総合センターだより

福島県農業総合センターは、農業に関する様々な研究が行われている試験研究機関であり、農業土木関係も各種の研究を進めています。

平成25年度は、昨年に引き続き「FOEAS(地下水位制御システム フォアス)」を導入した大豆の生育の比較試験や、地域の農業再生に係るFOEAS導入についての研究及び生態系配慮施設の管理手法の検討を行っています。

今年度からは、ため池の耐震性検証に係る研究を開始するなど、緊急を要する試験課題にも取り組んでいるところです。

隧道探検



秋の健康ウォーク

ガーナからの研修



また、当センターには農業土木に関する試験室や機材等もあり、これまでの様々な研究成果も活用していただきたいと思います。

トピックス

○秋の農村を巡る あぶくまふるさとウォーク

11月3日に、福島県二本松市の道の駅ふくしま東和を発着点に水土里を育む普及促進事業の一環として、「第7回あぶくまふるさとウォーク」を開催しました。



○「農空間 復旧への歩み」パネルを展示

10月4日〜6日まで、コラッセふくしまにおいて、「農空間 復旧への歩み」と題したパネル展を開催しました。展示ブースには、本県の農業農村の被害やその後の復旧状況、福耕支援隊の取組などのパネル20枚を展示しました。来場者からは、具体的な復旧状況や今後の予定などの質問とともに、福耕支援隊に対する感謝や職員に対する励ましの言葉も多数いただきました。



【農村計画課】

『福耕支援隊』情報

11月5日に、南相馬合同庁舎において、福耕支援隊員と農林水産部次長の意見交換会を開催しました。意見交換に先立ち、次長より支援に対する御礼を申し上げました。

その後の意見交換では、派遣期間に関することや執務環境、業務内容など多岐にわたる話題で意見を交わしました。主な意見として、

- 業務の効率化のためにも、年間を通じた派遣がよい。
- 打合せスペースの不足
- パソコンや積算システムに対する改善要望
- 派遣元での効率的な事務処理方法などの紹介

さらに、本県職員に対する負担を軽減するコメントもいただきました。

今後、こうした意見に対する改善策を検討するとともに、復旧・復興を加速させるため、頂いたアイデア等を参考にしていきたいと思います。【農村計画課】



編集後記

当課が主催するイベントシーズンも終わり、今年も残すところ1カ月となりました。



鎌倉岳(古殿町)にて

私は、人生の節目となる行事のほとんどで、雨が降っています。雨が降っていても、雨の音は心地よいです。雨の音は、心を落ち着かせる効果があります。雨の音は、心を落ち着かせる効果があります。雨の音は、心を落ち着かせる効果があります。

○復旧・復興に向けた最新の技術を紹介

10月22日に福島県農業総合センター多目的ホールにおいて、農研機構 農村工学研究所が主催する「東日本大震災復旧復興のための実用新技術講習会及び技術相談会」(共催:福島県)が開催されました。

講習会には県内を中心に、市町村や土地改良区、建設会社やコンサルタントなどの農業農村関係技術者が約130名参加しました。

当日は、農村工学研究所の震災以降の取組状況の報告や農地の除塩、除染など復旧復興に役立つ技術に関する個別相談など



が行われました。また、本県からも福島県型防災・減災対策『ふくしま 水土里の防災力アップ運動』について報告しました。

参加した技術者は熱心に新技術の相談をしており、復旧・復興に対する参加者の熱意が感じられる相談会となりました。【農村基盤整備課】

『農空間』とは...

農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間のことです。